

水道局の備え

1 応急給水、応急復旧 他の水道事業体の協力を受けながら、給水を確保し、迅速に機能を回復します。

応急給水

災害後、断水が生じた場合などは避難所や救急告示病院などへ応急給水を行います。

応急給水の水を確保する緊急時給水拠点を浄水場などに整備するとともに、給水タンクなどの応急資器材などを保全事務所などの給水基盤に保管します。

また、福岡市だけでは難しい場合は、他の都市からの応援、協力を得て、給水を行う体制を整えています。



給水タンク



応急給水栓から給水を受ける様子

応急復旧

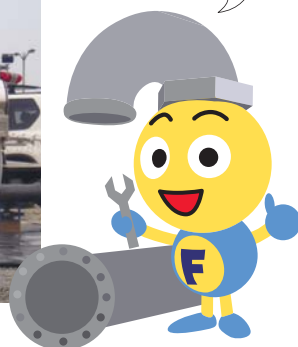
壊れてしまった水道管や、水道施設を修理し、機能を回復します。復旧に必要な資材や、管理図面などは、市内に分散して保有し、有効に活用できるようにしているほか、復旧要員や復旧資材の確保には、他の水道事業体や民間の水道事業関係者とも協力体制をとっています。

また、防災訓練などを通じて地域の防災強化につなげていきます。



防災訓練での水道管の復旧の様子

壊れた水道管や施設を迅速に修理！



2 水道施設の耐震化 地震に強い施設で被害を抑制します。

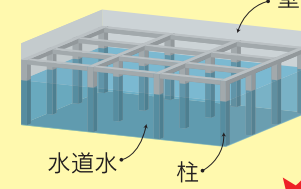
地震による被害で、浄水場、配水池、配水管などが壊れてしまうと、水道水を作ったり、届けることができなくなってしまいます。より強い水道施設となるよう、計画的に耐震化を進めています。

施設の耐震化(配水池の場合)

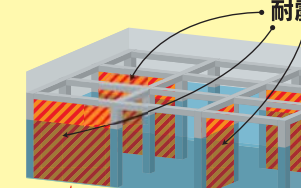
より強い施設となるよう、既存の施設を補強したり、建て替えを行っています。

●既存の施設の耐震化

<耐震化前の配水池>



<耐震化後の配水池>

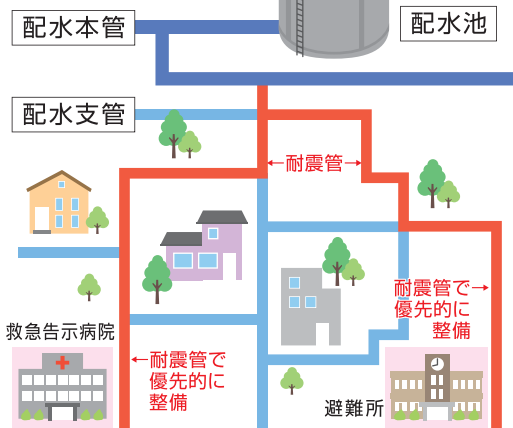
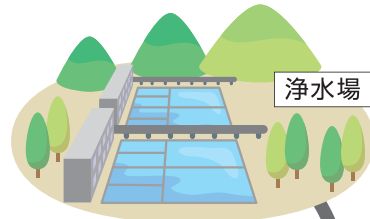


コンクリートの壁で、耐震性向上!

●施設の建て替え



配水池は、浄水場でつくった水道水をためておくところだよ。緊急時には、ここから給水車に給水したりもするんだ。



耐震化(配水管の場合)

新しく管を入れる時や、古くなった管を交換する時には、地震に強い管(耐震管)を使用します。また、避難所や救急告示病院など、非常時に特に水が必要な施設につながっている管を耐震管で優先的に整備しています。(耐震ネットワーク工事)



耐震管吊り上げ実験の様子
耐震管は、管のつなぎ目が伸び縮みすることで、揺れに対応できます。

家庭でも備えを!

地震によって、ご家庭の給水管の破損や、給水装置の故障が起こったり、集合住宅では停電による電動式送水ポンプの停止などでも、じゃ口から水は出なくなります。

日頃から、緊急時に生命維持のために必要な水の備蓄をお願いします!

水の備蓄は一人1日3リットル、3日分を目安に!

未開封のペットボトル入りの水は、比較的長期保存が可能なのが多く、備蓄に向いています。また、中の水を使い切った後に、給水車などから応急給水を受ける際、持ち運びにも便利です。(ペットボトル水の保存期限は各製品の表示をご確認ください)

水道水を保存する場合は、清潔でフタのある容器に、口元いっぱいまで水を入れて、保存中に空気に触れないようにしてください。直射日光の当たらない涼しい場所で保存することで、3日程度は飲み水として使用できます。

(浄水器をとおした水は、塩素による消毒効果がないため、毎日くみ替えてください)

くみ替えた水は掃除や洗濯にご使用ください。

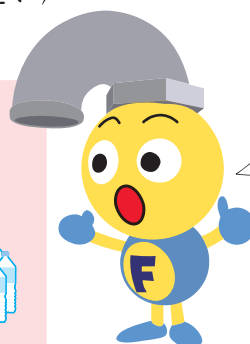
必要な備蓄量を計算してみよう!

家族の人数 人 × 3リットル × 3日 = 備蓄の目安

例) 4人家族なら...
4×3×3=36リットル



災害時の備えについて家族みんなで確認しておくといいね。



飲み水だけでも思ったよりたくさん必要なんだなあ。急に準備するのは大変だから、普段からの備えが大事なんだね!